

第4章

資料編

参加青年名簿
事業評価アンケート
研修日程
実績

事業評価アンケート

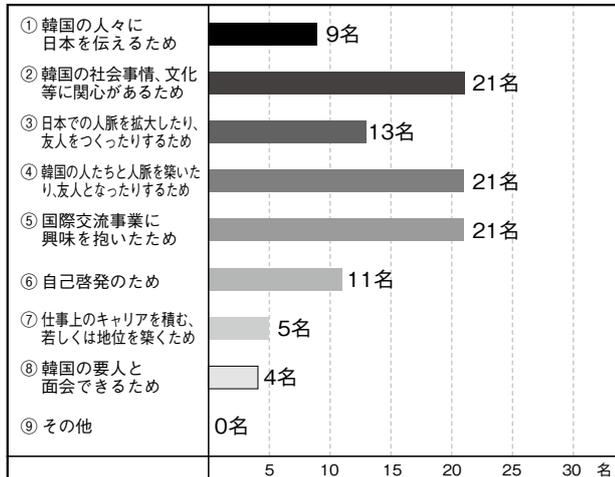
令和5年度 日本青年韓国派遣

アンケート対象者：団長、副団長、渉外を除く参加青年25名

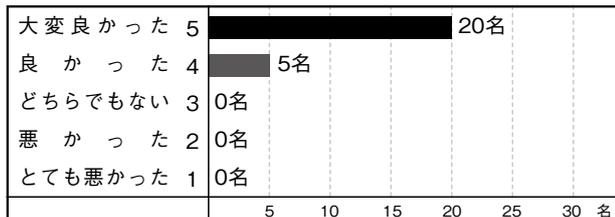
1. 全体評価

(1) あなたは、なぜこの事業に参加したのですか。

(複数回答可)

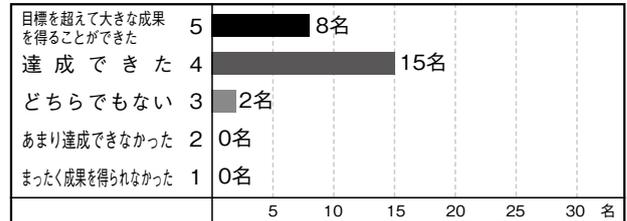


(2) 事業全体をどのように総合評価しますか。



- ・文化体験や歴史学習、青少年交流プログラムまで網羅的にカバーされた事業であり、参加時の目的を達成できたと思う。
- ・韓国の青年たちだけでなく、日本の青年たちとの出会いが私にとって大切な財産になったと感じている。
- ・事前・事後研修、派遣活動の内容が充実していて、このプログラムでなければ行けない場所に行ったり、会えない人たちに会うことができたりしたのはとても貴重な経験になった。一方で、毎日の長時間のバス移動や直前の訪問地変動などによる身体的負担があり、体制面を整えていただけるとより学びやすい環境になると思う。

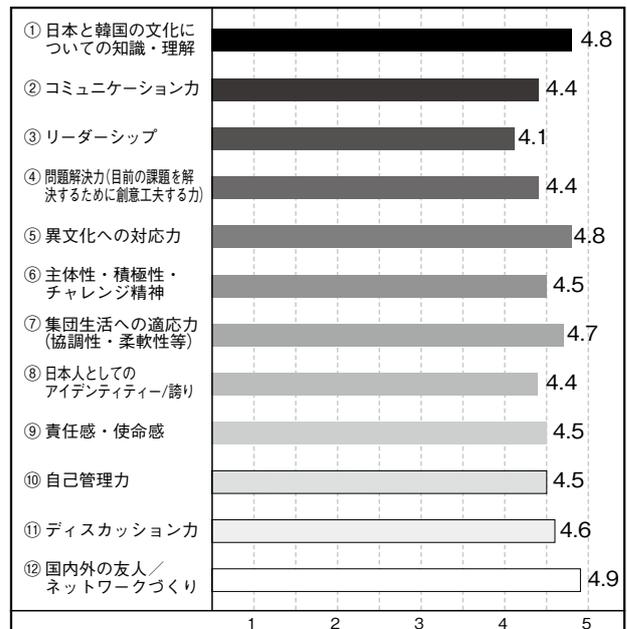
(3) この事業に参加するにあたって、あなたの目標は何でしたか。また、それは達成できましたか。



- ・興味のあることにためらわず挑戦し、学びと成長のある事業にすること。
- ・食文化の違いを通して、今後の日本と韓国の食文化や農業のあり方を考えること。
- ・韓国に日本の伝統文化の魅力を伝え、韓国の文化を深く理解すること。

(4) 以下の①～⑫に掲げる項目に関し、この事業全体を通じて得られた自らの成長等への効果について、以下の5～1のうち、該当すると思われる数字を○で囲んでください。(5段階評価)

- 5：大きな効果があった
4：効果があった
3：どちらでもない
2：あまり効果がなかった
1：効果がなかった

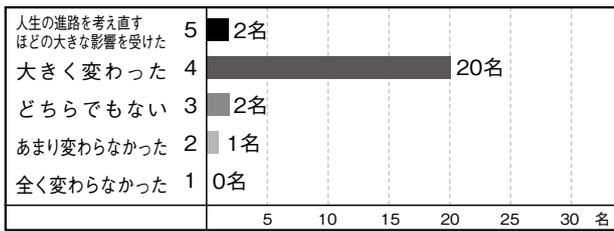


※数値は参加青年25名の平均

(5) 上記(4)に掲げたもの以外で、事業参加によって具体的に得られたものがあれば記入してください。

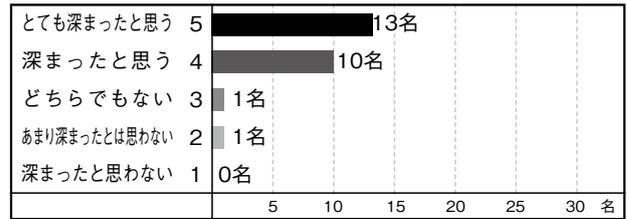
- ・他国の文化を正しく理解する方法と重要性。
- ・異なる世代の人との交流。
- ・集団の中で自分の個性を発揮すること。また、互いを思いやる言動や行動を取ることの重要性を改めて感じた。
- ・国内外におけるネットワークを得られたと感じている。また、事前研修や派遣が終わった後も続く友好関係を構築することができた。

(6) あなたはこの事業への参加を通じて、人生、社会などについての考え方が変わったと思いますか。



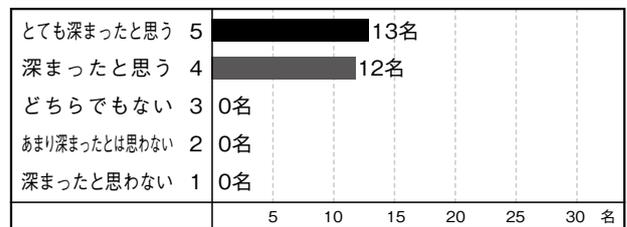
- ・同じ派遣団員の中でも様々な背景を持つ友人と出会い、刺激を受けることができた。
- ・異なる文化の中で育った青年たちとの交流により、「前提」を覆される場面や、理解に努めようとしても困難に感じる事が多く、より柔軟に物事を考えられるようになった。
- ・今までは何か興味があつたりやってみたいと思うことがあつたりしても、現実的な問題を考えてなかなか挑戦できなかったが、今回の事業への参加を通してやはり何事も挑戦・経験してみることが大切であるということを学んだ。
- ・念願叶って韓国を訪れることができたが、実際に渡韓し、以前よりもっと韓国が大好きになったことが本当に良かった。まずは、これまで以上に韓国語の勉強に努めたいという目標ができた上に、自分の心に嘘をつかず「好き」を突き詰めることが、どれほど素敵でかっこいい姿勢であるのかに気付かされた。日本でも韓国でも多くの人と交流し、人それぞれ多様な生き方があることを知り、自分の将来をもっと柔軟に考えても良いのではないかと思えるようになった。
- ・日本青年団、韓国青年団ともに、この活動に参加しなければ会えない人々に出会うことができ、多様なキャリアプランを知ることができたのは刺激的だった。また、在大韓民国日本国大使館の職員の方のお話などから、自分の経験や学びは自分だけのものではないこと、個人レベルの交流の積み重ねが大切であることなど、親善交流に対する意識が変わった。しかし、人生や社会についての考え方については大きな変化を感じていない。

(7) この事業を通じて、あなたと韓国の人々との相互理解が深まったと思いますか。



- ・韓国の方と交流して、初めこそ言語の壁を感じたものの、人対人という意識の下で対話を重ねようとする互いの気持ちが感じられ、互いに相手を理解しようと努めていた。
- ・韓国の歴史や文化などを韓国人の目線で学ぶことができた。
- ・韓国の青年と互いの文化を共有することができた。
- ・韓国の青年や出会った人との対話を通し、様々な物事に対して韓国の人々がどのように感じているのか、考えているのかについて肌で感じる事ができ、自分自身も聞かれたことには素直に答えるように心がけていたため、相互理解を深められたと感じている。
- ・講義、施設訪問、個人学習を通して韓国の歴史文化について学んだり、韓国青年との交流で友好を深めたりすることはできたと思うが、「相互理解」をするには十分な交流時間がなかったと思う。

(8) この事業を通じて、あなたと韓国の人々との友好が深まったと思いますか。



- ・韓国青年と「日韓青少年交流会」で1泊2日を共に過ごしたことが関係を深めるきっかけになった。今回交流した多くの青年たちと連絡先を交換して帰国してからも連絡を取り合っている。
- ・韓国青年団の団員とは8月のつどいで会っていたため、韓国派遣前からオンラインで連絡をとることができ、韓国での交流会時には悩みを話せるくらい仲を深めることができた。地方の韓国青年とは、数時間の交流だったためとても親しくなれたというわけではないが、今後SNSを通してコミュニケーションを取るなどすれば、友好を深められる可能性があると感じている。
- ・地方の青年との交流では、時間の短さに関わらず自分の積極性次第で密度の濃い時間を過ごせることを実感した。しかし、一番期待をしていた1泊2日の韓国青

年団との交流は、招へいプログラムのつどいなどに参加できなかったため、他の青年に後れを取っているように感じた。自分なりにたくさん話しかけて仲良くなる努力をしたが、差を埋められず心残りにも感じている。派遣が終了しても交流を続け、その時間を埋めて関係を深める努力をしたい。

(9) 事業参加を通じて、社会貢献活動を始めたい、参加したいという意欲等を持ちましたか。

十分に意欲を持った	5	10名
ある程度意欲を持った	4	13名
どちらでもない	3	1名
ある程度関心を持つようになった	2	1名
全く持たなかった	1	0名
		5 10 15 20 25 30 名

- ・ 団長、副団長を含む他の団員の話聞き、国際的に活動するといっても様々な方法があることを学んだ。その中でも特に発展途上国において社会貢献事業に関わってきた方の話が印象に残り、私も社会貢献活動を始めたいという思いが強くなった。
- ・ ディスカッションを通して、日韓両国だけではなく世界が抱える課題を知った。そのような社会問題の改善策を多角的に考えることで、より良い社会形成につながる実感した。
- ・ この事業を通じて自分の経験値の浅さを感じたが、その分伸びしろもあると思った。IYEOの活動に積極的に参加して自身の成長につなげたいと思っている。また、自分がこうして国の支援を受けてこの事業に参加できたように、誰かのサポートをしたいと考えようになった。

(10) -1 この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか。

とても役立つと思う	5	17名
役立つと思う	4	8名
どちらでもない	3	0名
あまり役立つと思わない	2	0名
役立つと思わない	1	0名
		5 10 15 20 25 30 名

- ・ 自分の進路について真剣に考え出すタイミングで国の代表として事業に参加し、多文化や異国の生活に触れることによって、視野を広げることができた。
- ・ 国の事業に参加できたという貴重な経験は、自分の人生に韓国との深い縁を生み出し、かつ自分に対しても誇りと自信を持つことができた。また、同じ志を持つ日本青年や韓国青年、OB・OGの方々となることができたことも、今後の人生に良い影響を与える存在になると確信している。

- ・ 将来はアジア圏の発展に寄与したいと考えているが、その際にこの事業で学んだ韓国の文化や歴史、伝統などが役に立つだろうと考えている。
- ・ この事業で得た経験を職場でも活かすことができると思う。

(10) -2 (10) -1において、5~4を選んだ方は、どのように役立つと考えるか、以下の内容から当てはまる項目を選んでください。(複数回答可)

① 就職の際の社会活動実績として示すことができる	13名
② 自分の広い意味でのキャリア実績として示すことができる	13名
③ 自分の専門分野の実績として示すことができる	5名
④ 自分的人格形成に対して良い影響を与える	21名
⑤ 自分の国際的視野が広がったことにより、理解力の向上につながる	21名
⑥ 国際問題や異文化に対する理解が深まった	21名
⑦ 韓国における人的ネットワークの広がり	18名
⑧ 韓国の日本人メンバーとの人的ネットワークの広がり	18名
⑨ その他	0名
	5 10 15 20 25 30 35 名

2. 訪問国活動について

(1) 訪問国活動プログラム全体をどのように評価しますか。

大変良かった	5	14名
良かった	4	11名
どちらでもない	3	0名
悪かった	2	0名
とても悪かった	1	0名
		5 10 15 20 25 30 名

- ・ ソウルだけでなく、4泊5日の地方プログラムを通して、韓国全体の様子を知ることができた。
- ・ 15日間の日程の中でやり残したことが感じられないほど様々なプログラムを準備していただき、満足いく体験ができた。
- ・ 多様な施設を訪問し、韓国青年との交流も多く全体的に良いプログラムであったが、移動時間が長く、チェックインとチェックアウトの繰り返しが続いたため、もう少し効率的にできる部分があったのではと感じている。
- ・ 韓国にはソウル以外にも有名な都市があり、それぞれが美しい自然や歴史的な施設を有する貴重な都市であることを知った。また、団体行動において他者との関わりを維持しながら自分の心身の健康を維持することの重要性を知ると同時に、私自身はどんな環境でもある程度ストレスなく生活できるという自信が生まれた。

(2) 訪問国活動プログラムから得たこと、発見したことは何ですか。

- どの地方都市に行っても日本語や日本文化を勉強している青年がいたことに驚いた。派遣団を歓迎してくれていて、日本に対して良い印象を抱いている人がたくさんいることを知った。
- 韓国の歴史や文化に日本との接点が多く、「近くて遠い国」というよりも「一緒に未来を切り開いていく隣国」という印象を抱いた。
- 韓国人の視点から見た「韓国」について知ることができたことは私にとって新たな発見だった。特に、国立民俗博物館を訪問した際、日本の植民地時代の歴史についてお話を伺ったが、植民地支配されている側からの歴史について日本で知る機会がなかったため、とても新鮮であった。同じ歴史を扱っていても、話し手の立場、また受け手の立場によって伝えられ方が異なることを発見できた。
- 言語の壁があっても、相手と関わろうとする意識が重要だと感じた。
- 韓国青年との交流や韓国の歴史の学びを通して韓国への理解は深まったが、私たちは自国のことへの知識が浅いと感じた。日本に興味を持ってきている人のためにも、交流の際には相手にも新しい学びを与えられるようになりたい。自国の良さを伝えることが今後の国際交流において自身の課題だと感じた。

(3) 訪問国活動プログラム中、最も印象に残ったのはどのようなことですか。

- ソウルでの「日韓青少年交流会」で韓国派遣団と1泊2日を一緒に過ごしたこと。韓国青年と寝食を共にすることはなかなかできないことであったため、とても刺激的だった。
- 1泊2日の「日韓青少年交流会」の夜食交流会で、ラフに韓国青年と互いの国のことを始め、いろいろな話をしたこと。
- 漣川で交流した青年の言葉が印象に残っている。国際交流が初めてだという彼が、別れ際に「僕は今まで海外に出た経験がなく、ずっとこの土地で過ごしてきた人間だけど、日本人に初めて会って、このように交流することができてとても良い思い出になった。」と伝えてくれた。私にはすでに韓国人の友人がいて、日本青年団の活動としても、いくつかの地方交流の一つという位置づけであったが、彼にとっては人生初の国際交流であり、その貴重な時間を共有し、良い経験として受け止めてもらえたことが嬉しかった。
- 最も印象的だったのは、どの地域を訪問しても日本語を上手に話し、日本文化を好きでいてくれる人々がいたことである。また、日本から来たことを多くの人が

歓迎してくれたのが印象的であった。日本青年が用意した日本文化紹介にも感激してくれる青年を何人も目にし、また日本の文化についてもっと知りたいと言ってくれる青年もいた。それぞれがいろんな角度から「日本」を見て、私たちと向き合おうとしてくれている姿勢が印象に残った。

- 韓国代表青年との自由都市ツアーが一番印象に残っている。韓国の友人とだからこそできることもあり、特別なひと時を過ごした。

(4) 地元青年との交流をどのように評価しますか。

大変良かった	5	17名
良かった	4	8名
どちらでもない	3	20名
悪かった	2	0名
とても悪かった	1	0名
		5 10 15 20 25 30 名

- 交流の機会が複数回あり、青年たちと話す機会が多かった。リクリエーションを通して仲良くなれた。
- 幅広い年齢層、また多様な地域の青年と交流することで、韓国の青年の様々な考えに触れることができた。
- 私は韓国語があまりできないが、訪問したどの地域の青年も日本語がとても上手でコミュニケーションを取りやすく、温かく受け入れてくれた。
- 互いに交流意欲を見せて会話をし、SNSなどで現在でも連絡が取れるくらい仲を深められたので良かった。一緒に何かをする体験活動がもっと多かったら、言語外交流がより深まったと思う。
- 交流自体は楽しく、有意義な時間になったが、チーム分けなどがきっちりしており、交流時間も短かったため、他のチームの青年たちと交流を深めることができなかった。
- グループに分かれて少人数での交流をすることで、関わった青年と濃い時間を過ごすことができた。特にマニトゲームは、普段人見知りをするような人でも自分から話に行くきっかけとなったので良かったと思う。全員とは話す時間がなかったのは惜しい点であった。

(5) 施設訪問をどのように評価しますか。

大変良かった	5	12名
良かった	4	13名
どちらでもない	3	0名
悪かった	2	0名
とても悪かった	1	0名
		5 10 15 20 25 30 名

(5)ー2 特に印象に残った訪問先を、印象が強い順に3つ挙げ、理由をお答えください

〈韓半島統一未来センター〉

- 日本にいと、北朝鮮と休戦中であること、北と南での離散家族といった実態に触れることがどうしても少ないが、実際に北緯38度線を見て、その事実を思い出すことができる場所となっていた。
- 日本は北朝鮮とは国交がないため遠い存在に感じていたが、韓国にとっては休戦状態にある国であり、統一を見据えた政府機関も設置されているということが大きな学びになり、実際に38度線をまたぐ経験は現在の国際政治を再考させられる経験になった。
- 訪問国活動のプログラムにおいて様々な場所を訪れたが、その中でも韓半島統一未来センターが最も「韓国」という国家に関して考えさせられるという点で印象的であった。特に日本の若者世代にとって韓国というと大衆文化への親しみがより強いが、実際に韓国は北朝鮮との問題を抱えていて、普段慣れ親しんでいる韓国とは全く異なった側面から韓国について学ぶことのできる非常に良い機会であった。また、韓国国内でも統一に対して意見が分かれる中、日本人として韓半島統一未来センターを訪問するということの意義についても考えさせられた。

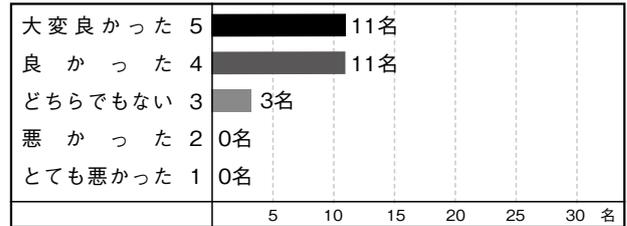
〈河回村〉

- 日本の白川郷と交流のある韓国の世界遺産を見て、文化を保全する大切さや難しさを考えるきっかけになった。
- 実際に人が生活している世界遺産を訪問し、博物館などでは感じることでできない体験ができた。高齢化が進み、いずれは住民がいなくなると言われているため、韓国の伝統的な住居をのぞけるのは今だからこそその経験ができると思った。
- 伝統ある村での生活を見学し歴史に触れる一方で、観光地化による問題についても学び、日本にも当てはまると考えさせられた。

〈浦項〉

- 浦項の青年たちの年齢層が高校生または中学生で、歓迎してくれている姿勢が真っ直ぐで印象的であった。特に私のグループの子が一生懸命日本語で言いたいことを準備してきたのが心に残った。グループアクティビティを通してみんなで交流できたのがとても印象的であった。
- 青年との交流だけでなく、海が素敵で宿泊施設から見える景色が何よりもきれいで、多少なりとはあった疲れが吹き飛んだ。派遣団員で日の出を見たりして、仲を深める時間となり、充実していた。

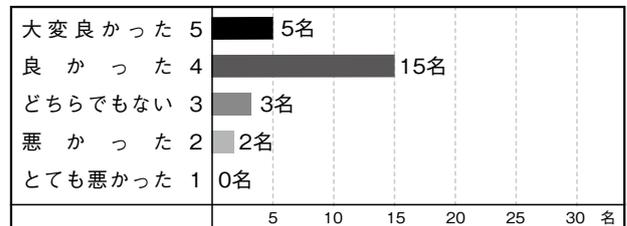
(6) 合宿型ディスカッションプログラムをどのように評価しますか。



- 「文化交流の夕べ」の翌日にディスカッションを一日中するというスケジュールはとても大変だったが、韓国青年と近い距離で普段は話せないことまでも話せてとても楽しく、仲良くなれたと感じる。
- ディスカッション自体は何とか発表までこぎ着けることができ、韓国青年とも協力して有意義なものにできたと感じている。しかし、発表の仕方についての詳しい説明がなかったために急遽やり直したことがあったので、事前に情報を共有しておいてもらえると、より良いものになったと思う。
- ディスカッションはチームでしっかりと準備した上で臨んだため、ある程度想定通りのものにすることができた。しかし、時間がタイトであったので想定外を楽しむ時間はなかった。

3. 事前・出発前・帰国後研修について

(1) 研修内容をどのように評価しますか。



(2) 研修の良かったところ、改善すべきところをそれぞれお答えください。

〈良かったところ〉

- 事前研修では参加青年同士の親睦を深めることができ、派遣に向けて様々な準備を進められた点が良かった。また、出発前研修ではオンラインではなかなか合わせられなかった文化発表の練習やプレゼントの準備などを行うことができ、訪問国活動に向けての最終準備ができた点が良かった。帰国後研修ではそれぞれが事業について振り返り、今後の報告会に向けて意見を集約できた点が良かった。
- 研修期間に団員同士の理解や結束力を事前に高めておくことで、15日間の訪問国活動でも互いに支え合い乗り切ることができた。また、種々の講義にて事前学習をしておくことできちんと知識を持った状態で韓国

派遣に臨むことができた。

- ・全国に散らばっている団員が、対面で準備を進め、コミュニケーションを取ることができた。団としてまとまるためには対面での日本での準備期間が必要であり、それを満たすものとなった。
- ・韓国での学びを振り返ったり、団の成長を話し合ったりすることで、この事業での成果を団員と共有し、認識することができた。
- ・プログラム参加前は、団長や副団長の指示に従って行動するというイメージを持っていたが、実際は青年団で一から決めることが多く、団員それぞれが自分の役割を見つけながら、意見を提案することができる環境がよかった。与えられたタスクを個々人でどのように捉えるか、現状からどのような軌道修正をすれば良いか、他の団員に自分の意見をどのように伝えるかなど、集団の中での自分の役割について考えて行動する機会が多くあり、とても良い経験になった。

〈改善すべきところ〉

- ・事前研修は3泊4日の間に様々なことを決め、顔を合わせられる間に進めておきたい作業もたくさんあったため、毎日遅くまで活動しなければ間に合わず、かなり体力的にきつかったと思うので、もう少し期間を長めに取る方が良いと感じた。
- ・一つ一つの研修日程が長いと思う。団研修の時間がざっくりと取られていたが実施効率が悪く、夜まで拘束する研修日程では疲労が蓄積する団員もいたため、例年実施したことを明示化しておくことでそれぞれ1日分ずつ短縮できるのではないかとと思われる。
- ・団研修の時間が多く設けられていたが、必要以上だったため、時間を持て余すことが多かった。また、出発前や帰国後は体調管理の面からも、もう少し短い方が良かったと思う。

4. 事業を終了して

(1) 今後、この事業の経験をどのようにいかしていきたいですか。

- ・本事業を通して、韓国への理解を深めることはもちろん、様々な価値観を持った人との関わり方や、相手を理解するために必要なことなど、社会生活において重要なことをたくさん学べたと感じているので、そういったことを社内でも私生活でも活かしていきたいと思っている。
- ・本事業を通して、韓国に関する理解が深まっただけでなく、バックグラウンドや言語が異なる人との交流の深め方、集団内で自分の強みを活かす方法を学ぶことができた。現時点で、韓国に直接的に関わる仕事をす

る予定はないが、この事業で学んだコミュニケーションスキルを使って、他者のアイデアを取り入れて視野を広く持っていたい。また、今度は私が異文化交流のイベントを企画したり、情報発信をしたりすることで、より多くの人々が韓国に関心を持ったり、理解を深められるようにしたい。

- ・まずはこの経験を他者に共有することを通して日韓友好関係及び国際交流関係の輪を広げていく。既に大学のゼミ、京都府のIYEOの場において経験を共有する時間を設けていただいた。また、この事業に参加して国際交流の魅力を変えて認識することができたので、これを機に他の国際交流プログラムにも積極的に参加したいと考えている。韓国に限らず国際交流を深めて異文化理解と相互協力の精神をより養う。

(2) その他、この事業の感想や事業に対する意見・提言があれば記入してください。

- ・このような機会に参加させていただいたことは当たり前ではないと感じている。この経験を自分自身の成長につなげるとともに、恩返しとして次世代につなげる活動を自ら発信していければと考えている。
- ・関心がある人にとっては、こうした事業の存在や意義・活動内容に関する情報を得やすい状況にあると思うが、そうでない人々にまでどのように活動の成果を還元できるのかを考えている。自分たちの活動が内輪だけの成果にならないよう今後とも思案していきたい。
- ・この事業は想像以上に大変であったが、本当に一生に一度の経験をさせていただいたと思っている。このような事業があるということはまだ知らない人がたくさんいると思うので、本事業の経験者としてもっと広報活動を活発化させ、多くの人にこの事業の存在と良さを知ってもらえるように尽力していきたい。
- ・大変多くのことを学ぶことができた。充実したプログラムを作り大きなサポートをしてくださった皆様に深く感謝する。また、韓国青年が日本に来た際に日本を代表して温かく出迎えてくださったことにも感謝する。ソウルで出会った韓国青年団は皆、富山や青森での地方都市プログラムも含めて日本で素晴らしい経験ができたこと喜んでおり、日本を楽しんでくれたことが私にとっても非常に嬉しかった。今後も何かしらの形で日韓事業を始め国際交流事業に関わっていきたいと考えている。

事業評価アンケート

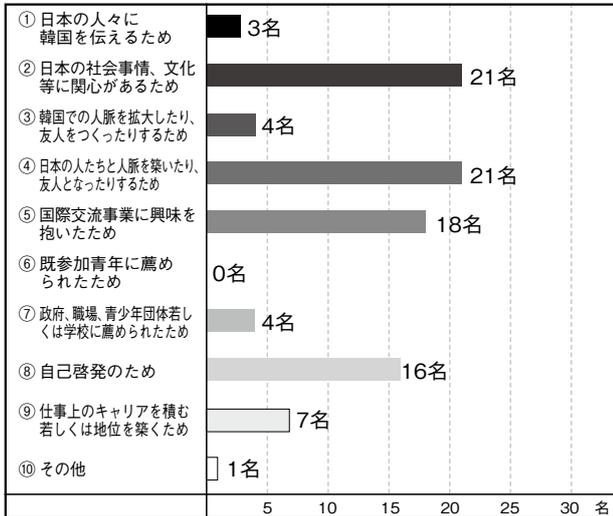
令和5年度 韓国青年日本招へい

アンケート対象者：団長、副団長等を除く参加青年26名

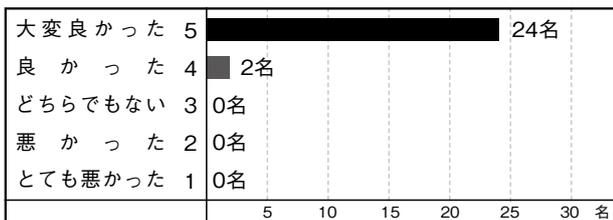
1. 全体評価

(1) あなたは、なぜこの事業に参加したのですか。

(複数回答可)

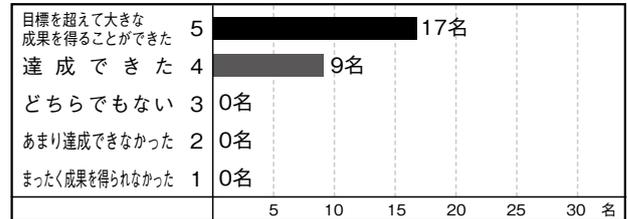


(2) 事業全体をどのように総合評価しますか。



- ・旅行では経験できない多様なプログラムを通じて、日韓両国の人と交流できるかけがえのない時間だった。
- ・日本の文化をより深く知り、日本青年と会話して意見交換することで、皆が一つになっていくような気がした。この大切な絆をこれからもずっと維持していきたい。
- ・防災、SDGs、コンパクトシティなど多様なテーマについて日本の各地はどう取り組んでいるのかを学ぶことができた。また、単なる学びにとどまらず、韓国は今後どうすべきかを悩ませるようになっていた点良かったと思う。このようにあるテーマの下で日本を学んだだけでなく、日本人と直接交流し、話し合うことで日本語の練習ができたこと、そして微妙に異なる日常の中の日本の文化を学ぶことができた。

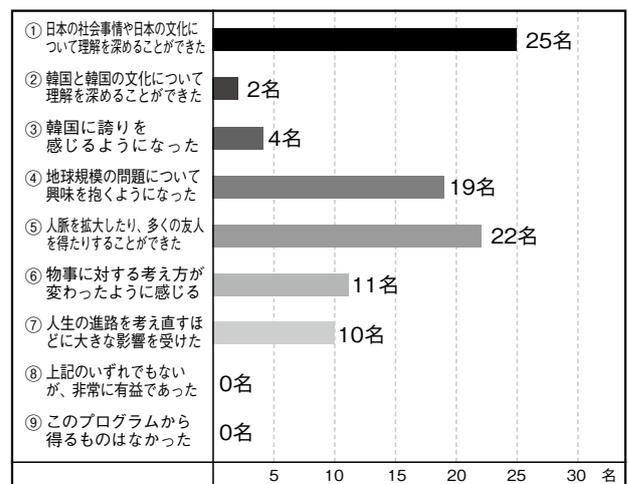
(3) この事業に参加するにあたって、あなたの目標は何でしたか。また、それは達成できましたか。



- ・日本語の会話能力を向上させること。
- ・自分とは異なる考えや文化、意見を持っている人とコミュニケーションを取り、協力してみること。
- ・韓国を代表して日本青年と交流し、日本の機関に訪問しグローバルな問題に対する解決策を探ること。
- ・韓国の文化を発信し、日本の文化を学ぶこと。
- ・いろいろな人と会い、社会性を向上させ、外国語で話すことへの自信を付けること。

(4) あなたは、この事業からどのような成果を得ましたか。

(複数回答可)



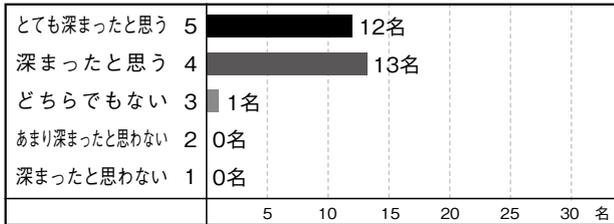
(5) この事業から、(4)で示したものの他に、具体的に得られたことがあれば記述してください。

- ・このプログラムを通じて大事な人間関係を築くことができた。
- ・新しい環境でも怖がらず挑戦する方法を学んだ。
- ・多様な地域に住む人や日本と韓国の青年、スタッフの皆さんと会話しながら視野を広げることができ、新たな価値観を学ぶことができた。
- ・日本が地域活性化に積極的に取り組んでいることを知り、韓国も地域の特性を活かすことが大事だと感じた。
- ・この経験を通じてより様々な活動に挑戦できる勇気を得ることができた。また、日本語に興味を持ち、勉強

する意志を固めることができ、本当に良い思い出としてこれからまた一生懸命に生きていくモチベーションを得ることができた。

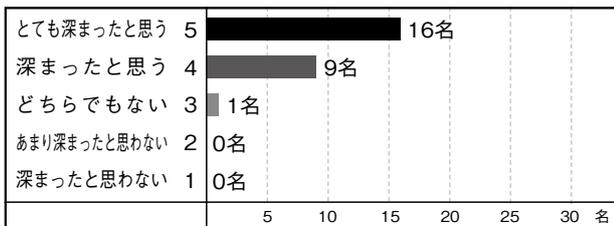
- 他国が社会問題にどう取り組んでいるのかは学んだものの、いざ自国である韓国についてはきちんと知っているのか、と思わされ、韓国の社会問題についてより多く関心を持つべきだと感じた。

(6) この事業を通じて、あなたと日本の人々との相互理解が深まったと思いますか。



- 日本人と直接交流し、日本での日常を体験できる、また韓国の文化を発信できる時間だった。
- 2回のディスカッションとつどい、ホームステイを通じてたくさん話し合いながら互いの考えを共有することができた。
- 日本青年との交流を通じて似たようで異なる点を知ることができ、深く理解できる時間であった。
- 学問的なディスカッションもあったが、何よりも自由な交流時間がたっぷりあったので、様々な話ができたとと思う。

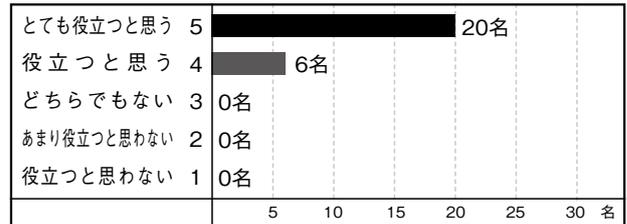
(7) この事業を通じて、あなたと日本の人々との友好が深まったと思いますか。



- コロナでコミュニケーションが断絶された期間が長かったため、心配だったが、対話を通じて誤解を解き、近づくことができる関係であることを改めて気付かせてくれるプログラムであったと思う。もともと知り合いだったかのようにすぐに仲良くなり、話し合いながら楽しい時間を過ごせたことは、日本人に対して友好的な感情を抱ききっかけになった。
- 言葉や文化の壁を越えて友達になることができた。
- ネットなどメディアだけでは築くことのできない友情や関係性を一緒に生活し、直接経験しながら築くことができ、互いをよく理解できるようになったと思っている。
- 会って話してみると日本人、韓国人というよりもた

だ、人と人との関係であることが分かった。国籍を問わず心は皆つながっていると思った。

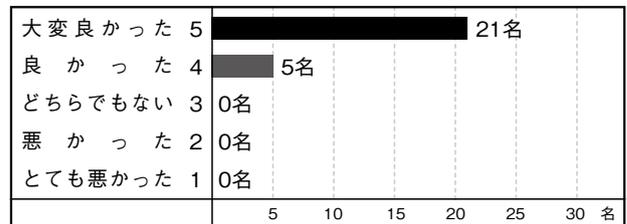
(8) この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか。



- 青少年に関連した仕事をしたいという考えに確信が持てなかったが、今回のプログラムを通じて様々な夢を持っている青年を見て刺激を受け、将来のことを少し描けるようになった気がする。
- 国際事業に関わる進路を選ばなかったとしても、多様な経験を通じてたくさんの気づきを得ることができた。
- 将来、日本で韓国語教師として働きたいと考えている。今回、韓国語を学びたい日本人や韓国に全く興味のない日本人等、様々な種類の学習者に会うことができ、進路を考える上で大きな学びを得た。また、韓国語の需要を高める上で重要なことは何かについても気付くことができ、今後この経験を土台にして韓国語教育に寄与していきたいと思う。
- 今後は何かのプログラムに参加する際に、就職のためのスペックとして活用しようと思わない。日本の文化を経験し、日本人と会話したことが今後どういう会社に入り、どういう仕事をやるときに役立つかはまだ分からない。しかし、私と異なる文化の中で生きてきた人に出会い話しながら学んだこの経験は、きっと私が生きていく上で糧になると思う。そして日本語の勉強をもっと頑張ろうと思った。

2. 日本での活動について

(1) プログラムの内容についての全体評価



- 日本の文化を肌で感じながら日本のことを理解することができた。また、団体行動をしたことで今後社会に出た時にどのように動くべきかを学ぶことができた。
- 各地方の県庁を表敬訪問して地域に関する説明を聞いたり特産品について学んだりするとともに、実際に地域を見て回って体験できたことが楽しかった。

ただ、富山県では交流時間が少なかったことが少し残念だった。

- ・自分の人生でこのような経験を再びできるのだろうかと思うほどかけがえのない経験と絆を作ることができた。
- ・ホームステイや内閣府の表敬訪問、ふるさと回帰支援センターの訪問など、旅行ではいけないような場所を見学し、体験できて良かった。
- ・日程が全体的にきつかったが、生活のクオリティー（ホテルや食事等）をきめ細かく管理してくださるのが感じられ、満足しながら日程に臨むことができた。各地域が誇る長所が何かをきっちり確認でき、生活する中で日本の文化を本当に愛するようになった。

(2) 日程について

きつすぎた	5	7名
少しきつかった	4	16名
適切	3	3名
少しゆるかった	2	0名
ゆるすぎた	1	0名
		5 10 15 20 25 30 名

- ・休憩時間がやや足りなかったのので、プログラム後半になると体力的にきつかった。その分、充実した時間を過ごせたので悪くないと思う。むしろこれ以上緩かったら物足りなさを感じたと思う。
- ・途中休む日程がなくスケジュールが続いたため、体調管理がきつかった。
- ・富山県での各プログラム間の移動時間がとても短く、十分な休憩をとることができなかった。
- ・日本を全て見るには当然ながらあまりにも短い時間であったが、多くの学びを提供しようとプログラムが組まれていることが伝わり、とても良い日程だったと思う。しかし、各地域における自由時間が少なかったのので、休憩を取ったり自由観光を通じた思い出を作ったりする機会は足りなかったと感じた
- ・集合時間が遅い日や、解散時間が早い日が合間合間にあつたので、さほど負担にならなかった。

(3) 東京プログラム 8月23日 首都圏外郭放水路について

大変良かった	5	14名
良かった	4	11名
どちらでもない	3	1名
悪かった	2	0名
とても悪かった	1	0名
		5 10 15 20 25 30 名

- ・一度は行ってみたかったところなので行けてとても嬉しかった。

- ・首都圏にこのような施設があることを初めて知り、地形的な問題、そしてその解決方法を知ることができて良かった。とても興味深く、多くの学びを得ることができた。
- ・この数年の間、韓国国内でも江南駅や漢江の浸水被害が相次いでいたので韓国でも関心が高く、私自身も興味があった。日本では以前から非常に大きく長い放水路を作って洪水に備えている点がとても印象的だった。韓国青年にも興味深いテーマだったと思う。

(4) 東京プログラム 8月24日 東京消防庁都民防災教育センター池袋防災館について

大変良かった	5	14名
良かった	4	11名
どちらでもない	3	1名
悪かった	2	0名
とても悪かった	1	0名
		5 10 15 20 25 30 名

- ・説明してくださる方が情熱的で、内容も充実していて、実際の状況に遭遇した時に使える有益な内容だった。
- ・韓国にもある内容が多かった。もう少し日本で起きている災害について知ることができたら良かった気がする。
- ・災難時の対処方法の教育が重要であると身をもって知った。持続的な教育を通じて、実際の状況でも慌てず冷静に対処することが重要だと感じた。
- ・韓国にも防災館のような施設はあるもののあまり知られていない上、安全教育が形式的にのみ行われる場合が多い。しかし、日本の防災館は活用されていて、見習うべきだと思った。

(5) 東京プログラム 8月24日 特定非営利活動法人 100万人のふるさと回帰・循環運動推進・支援センターについて

大変良かった	5	18名
良かった	4	7名
どちらでもない	3	1名
悪かった	2	0名
とても悪かった	1	0名
		5 10 15 20 25 30 名

- ・日本での活動期間中、一番良い学びの時間であり、印象深かった。先日韓国人が旅行先として国内よりも海外を選ぶ傾向があるという統計結果を見て、韓国における地方への認識を改めて考えた。韓国の各地方への興味関心を高めるために、地方の特色をもっといかした方が良いと思っていたが、偶然にも今回のプログラムを通じて地域活性化に関する日本の方針やその実態

について実体験に基づいた話を聞くことができ、いろいろと考えさせられる良い時間だった。

- 韓国も都市密集化現象が大きな社会問題として台頭している中、似たような問題を抱えている日本の解決方法を見て、このような努力もあるのかと感服した。
- 今まで私は絶対都会が良くて都市に行きたいとだけ思っていたが、ここを訪れて様々な場所の魅力を知った。また、愛情の籠った地域の紹介は、その地域をとて輝く場所にしてくれるものであると感じた。私も私のふるさとである韓国と私の町を愛し、人に誇らしく紹介してみたいと思った。ただ田舎町でつまらないと思っていた地元を、人から素敵な町だと思われるよう、ふるさとを愛する気持ちを持ちたいと学んだ場所であった。

(6) 東京プログラム 8月25日～27日 日韓青年親善交流のつどいについて

大変良かった	5	22名
良かった	4	4名
どちらでもない	3	0名
悪かった	2	0名
とても悪かった	1	0名

- つどいはこのプログラムの中で一番楽しい時間だった。日本の友達とたくさん話し合い、一晩中ディスカッションの発表を準備している間、私たちは更に親しくなった。言語の壁を越えて疎通できた。
- 今回の日韓交流プログラムの「花」だと思えるのがつどいであった。名前の通り、皆が集って自由に交流し、様々な活動と一緒に取り組むことができ良かった。特に文化体験やバーベキュー、ディスカッションまであるので、学問的な議論から楽しい時間までも完璧に構成されていたと思う。それらをスムーズに進めてくださった関係者の方々の努力を改めてありがたく感じる時間であった。
- つどいを通じて日本人の友達を作ることができて良かった。交換留学に行くか、日本語がすごく上手でない限り日本人の友達を作るのは難しいが、このつどいを通じてたくさんの日本青年と会って友達になれた。ただすごく良かった分、短すぎて残念であった。1日程度増やして、千葉県を日本青年と自由に歩き回ることができる時間があると更に良かったと思う。
- 同年代の青年たちと交流しながら楽しい時間を過ごせたのはもちろん、本当に大切な友達にも出会う機会になった。人生でこのような出会いがまたあるのだろうかと思うほど大切な絆をたくさん作ることができた。

(7) 東京プログラム 8月5日 日本青年との都内視察について

大変良かった	5	11名
良かった	4	9名
どちらでもない	3	4名
悪かった	2	2名
とても悪かった	1	0名

- 都内を視察することも良かったが、その中で日本青年と一緒に笑ったり話し合ったりしたことが印象深かった。
- 少人数で集まって更にたくさんのお話ができて、熱心にプログラム準備してくれたことがうかがえた。
- 与えられた時間があまりにも短く、日本青年とゆっくり回るのが難しかった。
- 日本青年と一緒に東京の新しい所に訪問できる良い機会だと思って楽しみにしていたが、スケジュールの検討が十分ではない印象であった。日程表を事前に韓国側に共有し一緒に話し合ったりするなど、日程を確認する時間があればより良いものになったと思う。

(8) 富山県プログラムについて

大変良かった	5	11名
良かった	4	14名
どちらでもない	3	1名
悪かった	2	0名
とても悪かった	1	0名

- 富山大学の学生と地域の問題についてディスカッションしながら、今後韓国にも適用できる問題及び解決策だと思い、多くのことを学べる時間になった。
- 富山大学の学生たちとのディスカッションの時間が短く、プレゼンテーションをきちんと準備できなかったが、新しい人に会って一緒にできて良かった。
- 富山は環境に強い関心を寄せる地域だった。東京の後に富山に行ったので、その地域的特色についてもっと感じることができたと思う。富山のプログラム構成が全体的に富山の多様な地域文化や特色に触れることのできるものになっていて良かった。例えば、組子細工や金屋町の鋳物工房、そしてイタイイタイ病資料館に行って、その地域にあった辛い歴史やその解決過程についての説明も興味深く聞いた。
- ディスカッション前後に地元青年ともっと交流できる時間が十分あったら良かった。

(9) 青森県プログラムについて

大変良かった	5	17名
良かった	4	7名
どちらでもない	3	2名
悪かった	2	0名
とても悪かった	1	0名

- ・ホームステイを通じて2泊3日間青森の住民のように過ごしながら、地域の文化を体験することができて良かった。
- ・青森にいる時間が短くて残念であった。ホームステイの時間がもう少し長かったら良かったと思う。
- ・短い期間であったが、青森でのホームステイはとても楽しい経験で、思い出になった。ホームステイで日本の家庭の中に入り、一番近いところで日本人の暮らしを見ることができた。トイレの構造やおかずなど、細かいところではあるが、韓国と違うところに気付いていくことが面白く、ホストファミリーの方々が私たちのために青森の様々なところを紹介してくださろうとしていることが感じられて本当に有り難かった。
- ・青森県でのホームステイでホストファミリーが日本家庭の文化を体験させてくださったのが本当にありがたかった。観光客を対象にしたようなところではなく、函館山に行ったのがとても良かった。既に東京、富山でたくさん学んできて、伝統や歴史を受け入れるには頭の容量が足りない状態だった。ただ、私がなぜこの家庭とマッチングされたのか、簡単な説明があったらなお良かったと思う。私はホームステイ家庭に本当に満足し、初日にすぐ私がなぜこの家庭とマッチングされたのかが分かった（お子さんが英語を使いたがっていた）。自分がマッチングされた理由が事前に分かれば、それに沿って話したり、私がおっと積極的に英語を使ったりすることもできたと思うので、こうした点についてあらかじめ双方に知らせてあげた方が良いのではないかと思った。

(10) 訪問国活動中、もっとも印象に残ったのは、どのようなことですか。

- ・つどいが一番印象深かった。多様な青年に会い、協力しながら意見を出し合うその全ての過程を通じて、真の学びとは何か、疎通とは何かを知ることができたため。
- ・ホームステイが一番印象深かった。ホストの方が様々なプログラムを準備してくださったおかげで2泊3日の間、意味深い活動ができ、常に配慮してくださって幸せな時間であった。
- ・一番印象に残ったものは選べない。あえて選ぶなら、つどいの時に日本人青年と日本語と韓国語の違いにつ

いて話した経験、そして、普通は訪問できないような内閣府に表敬訪問できたこと、そして最後にホームステイで青森の家族と交流できたことである。

- ・工房等を見学したとき、日本の職員の皆さんが職人魂を持って自分が持っている会社のように最善を尽くして働く姿が印象的だった。これは日本人特有の性格から起因しているのか、それとも何か特別な人事管理の技があるのか気になった。
- ・日本でのすべての瞬間が一生忘れられないと思う。コンビニエンスストアに行ったささいな瞬間も、日本のスタッフの方々と冗談を交わしながら一緒に笑ったその瞬間さえも。

3. 事業を終了して

(1) この事業に参加して日本に対する印象は変わりましたか。

非常に良くなった	5	17名
良くなった	4	7名
変わらない	3	2名
悪くなった	2	0名
とても悪くなった	1	0名

- ・もとより最高に好きだったので、「変わらない」を選んだ。
- ・普段から日本について関心があり、見習う点が多いと感じていた。韓国と似たようで違う、近くて遠い国なので日本の文化をより近くで見たいと思っていた。この事業に参加し、様々な日本の方に会って話しながら、偏見を持っていたところや知らなかった点を知り、理解することができた。
- ・本当に皆が親切で、思いやりと礼儀正しさが強く感じられた。街も韓国に比べてとてもきれいで、富山や青森のような地域の住民が地元を愛する気持ちが強く伝わってきて印象深かった。
- ・韓国よりも社会問題にしっかりと備えていると感じ、実際にコンビニエンスストアなどでもそのような努力が見えた。

(2) 今後、この事業の経験をどのようにいかしていきたいですか。

- ・多様な国籍を持つ青年が集まる活動をたくさん実現させたい。
- ・この事業をきっかけに日本語の勉強をもっと頑張りたいと思い、日本の友達との縁も続けていきたい。
- ・これからも日本語を勉強し、日本という国に対する関心を持ち続け、日韓両国の友好関係の維持に貢献したい。また、ディスカッションの時、日本青年と議論し

た内容を基に、韓国の問題を解決するための方法についてこれからも考えていきたい。

- ・私は今回の経験を通じて漠然と持っていた海外の人々とは友達になれないという不安を振り払うことができた。これから更に多様な海外の人々と交流することで自分の見聞を広げ、国際的なプロデューサーとして活躍したい。
- ・これから日韓交流に関連するプログラムに積極的に参加することになると思うが、そのようなプログラムを主催してみたいとも思った。

(3) その他、この事業に関して特に意見・提言があれば記入してください。

- ・学生とのディスカッションもいいが、文化交流を通じた交流により重点を置いてもいいと思った。
- ・やはり暑いので十分な水分補給、休憩時間がもう少しあれば良いと思った。また食事の量が少ないと感じる人もいた。全日程の半分が過ぎた段階で休息日が1日入ると良いと思う。
- ・日程の共有及び同行する人数の共有がもう少し早かったら良かったと思う。
- ・様々な日本青年に会えたのはとても良かったが、あまりにも短かったので仲良くなれそうな時に別れてしまい、深く親身になる時間が足りなかった気がする。特につどいの時が一番名残惜しかったので、つどいの日程をもう少し長くすると良いと思う。

研修日程

令和5年度 日本青年韓国派遣

【事前研修】

研修会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

研修方法：Zoom

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	オンライン1日目	オンライン2日目
月日	7月5日	7月6日	7月7日	7月8日	7月15日	7月22日
曜日	(水)	(木)	(金)	(土)	(土)	(土)
8:00						
8:30		副団長・渉外 ミーティング	副団長・渉外 ミーティング	チェックアウト		
9:00						
9:30		団研修				
10:00						
10:30			団研修	団別研修		
11:00	団長・副団長・ 渉外会議	ディスカッション 講座(基礎)				
11:30						
12:00						
12:30	参加青年 受付	昼食	昼食	昼食		
13:00					オープニング	オープニング
13:30	開講式	外務省職員による 訪問国に関する 講義	移動	事後活動に ついて	訪問国事情に 関する講義	団研修
14:00	オリエンテー ション①			閉講式		ディスカッション講座(実践)
14:30					休憩	留学生との ディスカッション
15:00	オリエンテー ション②		韓国文化院訪問		団研修	
15:30		団別研修				休憩
16:00	団別研修				OB・OG懇談	団研修
16:30						
17:00	チェックイン		移動		クロージング	クロージング
17:30						
18:00	夕食	夕食				
18:30			夕食			
19:00	団運営に関する 講座	渡航に関する 説明	事務連絡			
19:30						
20:00			団長・ 副団長・ 渉外会議	自主 研修		
20:30	自主研修	自主研修				
21:00						
21:30						

【出発前研修】 研修会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

【帰国後研修】 研修会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

	第1日目	第2日目	第3日目
月日	10月16日	10月17日	10月18日
曜日	(月)	(火)	(水)
8:00			
8:30		朝食	朝食・ チェックアウト
9:00		副団長・渉外 ミーティング	08:45 研修会場発
9:30		訪問国における注意 事項及び安全管理	↓
10:00			9:45 羽田空港着
10:30		団研修	↓
11:00			
11:30			
12:00			12:05 羽田空港発 (NH863)
12:30		壮行会	
13:00			
13:30	受付		
14:00			
14:30	オリエン テーション		
15:00		団研修	係別 ミーティング
15:30	訪問国活動に ついて		
16:00	団研修		
16:30			
17:00	渡航に関する 説明		
17:30			
18:00	チェックイン ・ 夕食	夕食	
18:30			
19:00			
19:30	団長・ 副団長・ 渉外会議	団研修	
20:00			
20:30	自主研修	自主研修	
21:00			
21:30			

	第1日目	第2日目	第3日目	
月日	11月1日	11月2日	11月3日	
曜日	(水)	(木)	(金)	
8:00				
8:30		朝食	朝食	
9:00		副団長・渉外 ミーティング	チェックアウト	
9:30		団研修	係別 ミーティング	
10:00				評価会
10:30				
11:00			成果発表	
11:30			昼食懇談会	
12:00		昼食	事務連絡 解散	
12:30				
13:00		報告会等に ついて		
13:30				
14:00				
14:30	14:20羽田空港着 (NH864)	事後活動に ついて		
15:00		団研修	海外旅行保 険の申請 ・ 渉外会議 団長・副団長	
15:30				
16:00				
16:30	16:30羽田空港発			
17:00				
17:30	17:30研修会場着			
18:00	チェックイン ・ 夕食	夕食		
18:30				
19:00				
19:30		団研修		
20:00				
20:30	自主研修	自主研修		
21:00				
21:30				

第34回 日本・韓国青年親善交流事業

発行：内閣府
〒100-8914
東京都千代田区永田町1-6-1
TEL：03-6257-1435
URL：<https://www.cao.go.jp/koryu/>

編集：一般財団法人 青少年国際交流推進センター
〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町2-35-14
東京海苔会館 6階
TEL：03-3249-0767
URL：<https://www.centerye.org/>

印刷：株式会社 長正社